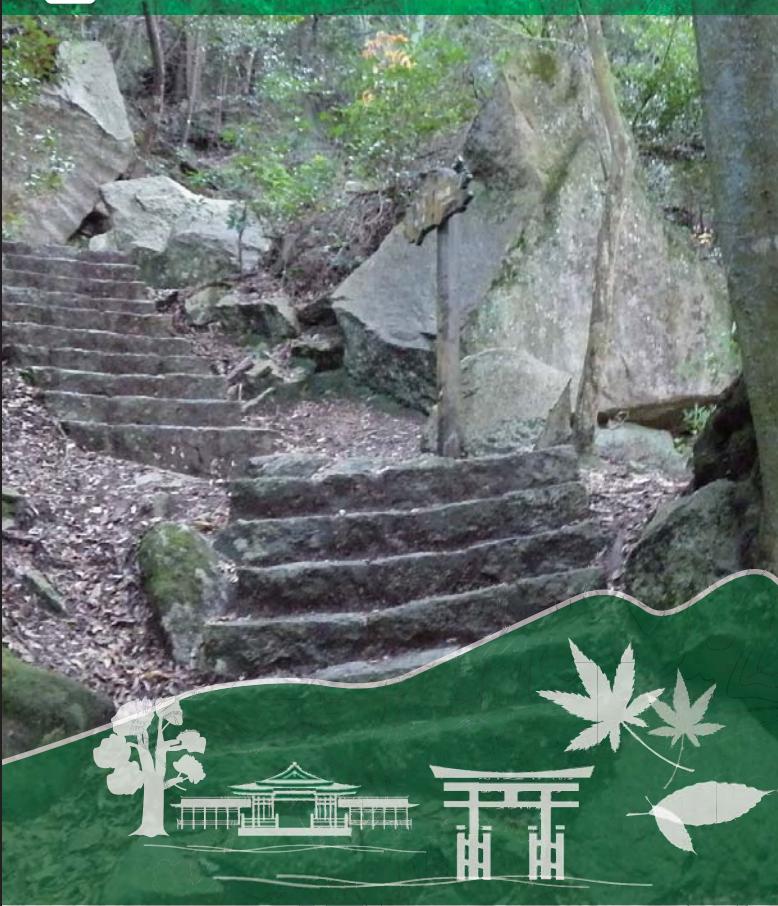


宮島の自然散策マップ

2 動植物観察コース 大元ルート～紅葉谷ルート



2 動植物観察コース

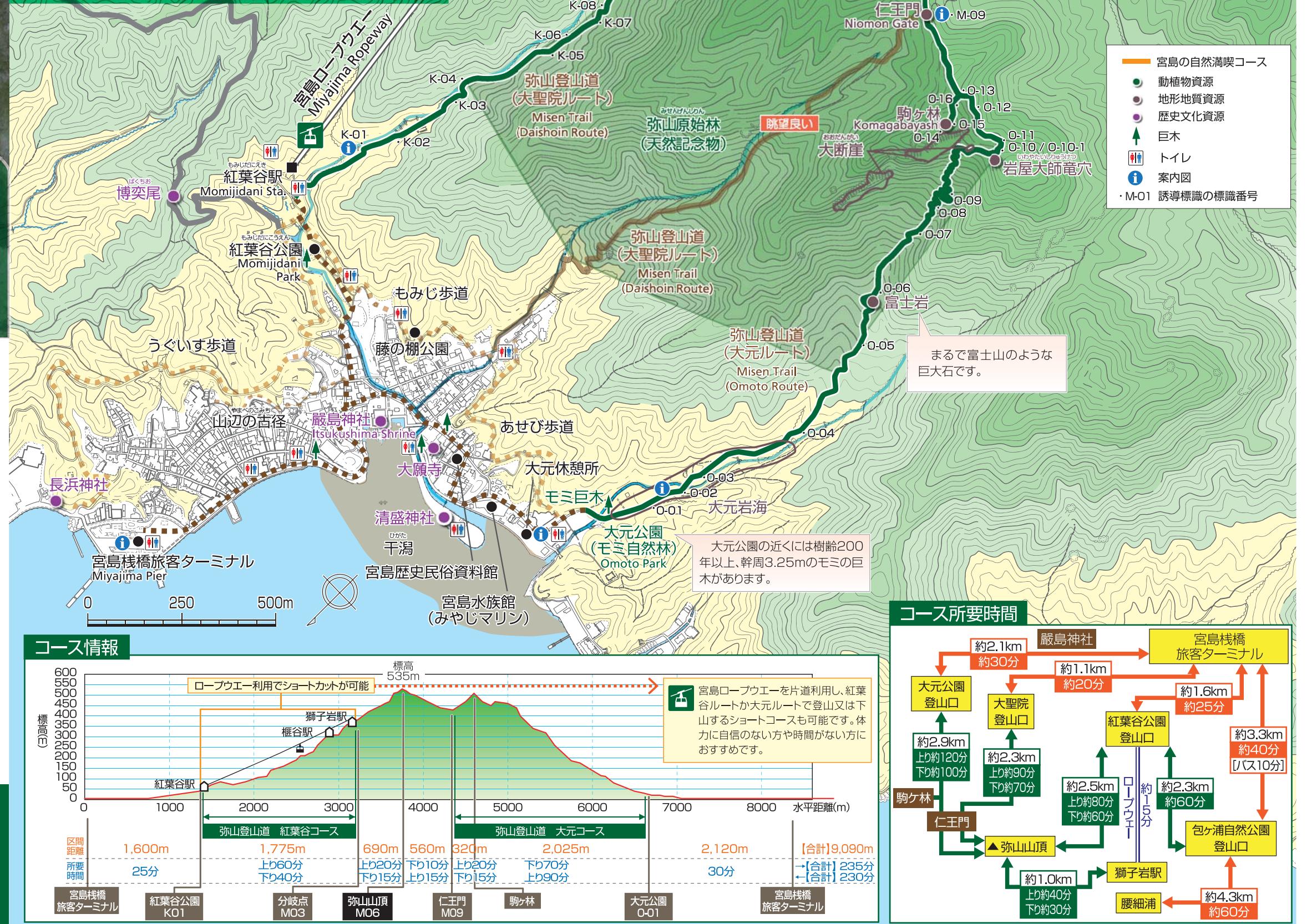
大元ルート～紅葉谷ルート

紅葉谷公園から原始林に入って弥山に登り、岩場の植生が見られる駒ヶ林の大岩を経由し、モミ自然林が広がる大元公園まで下るコースです。

【距離】 合計 約8.82km

【所要時間】 約4～5時間

【難易度】 軽い登山レベル



2 [動植物観察コース]のみどころ

動植物観察コースは、上りは弥山登山道の「①紅葉谷ルート（紅葉谷公園～弥山山頂）」、下りは「②大元ルート（山頂～大元公園）」を歩きます。それぞれのコースで、貴重な植物や動物を見ることができます。

①紅葉谷ルートの動植物

紅葉谷公園の渓谷沿いにイロハモミジ、オオモミジ、ウリハダカエデなどが多く生育し、秋には色とりどりの紅葉がみられます。これらのモミジ類は江戸時代に植樹したのが始まりとされています。登山口ではモミ自然林がみられ、弥山原始林に入るとウラジロガシ、ツクバネガシ、ミミズバイ、カゴノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹林がみられ、稜線では、アカガシ、トサムラサキなどがみられます。夏季には、渓流沿いや林内で、オオルリ、メジロ、キビタキなどの鳥類がみられ、標高が上がるにつれてカッコウ、ホトトギスなどのさえずりを聞くことができます。

コース上の主な自然資源

紅葉谷公園・庭園砂防事業



紅葉谷公園は弥山山麓の紅葉谷川に沿って広がる公園で、古くから名勝地として親しまれてきました。昭和20年の枕崎台風で一帯は土石流に飲み込まれましたが、地元の熱意と全国からの支援・協力に支えられて災害復旧工事が行われ、今日に見られる砂防庭園が完成しました。工事には庭園師が手がけ、石材は現地にあるものを傷つけずに野面石のまま使用し、樹木は切らない、コンクリートの面は目に付れないよう岩で包むなど、安全性はもちろん自然景観に配慮した美しい庭園となりました。モミジ類が一斉に色づく秋は見ごたえがあり、春は桜、夏は新緑と季節ごとに変わりゆく自然が満喫できます。

獅子岩



獅子岩は、ロープウェー終着駅であり、獅子（ライオン）に似ているからそう呼ばれているそうです。獅子岩は展望台となっており、東、南、西の三方が急な崖に囲まれているため、弥山山頂にも負けないすばらし眺望が広がります。

②大元ルートの動植物

大元公園一帯では、低標高には珍しいモミの自然林が広がっています。弥山原始林に入るとウラジロガシ、ツクバネガシ、タイミニンタチバナ、タラヨウ、カギカラズなどからなる常緑広葉樹林がみられます。また、点在する巨岩には、コウヤコケシノブ、ホソバコケシノブ、ヒメカガミゴケなどがみられ、駒ヶ林の大断崖や付近の森にはツガ林が広がり、ミヤジマシモツケ、ナンキンナナカマド、イワガラミ、コウヤマキなどの植物がみられます。樹林内では、ヤマガラ、メジロ、キビタキなどの鳥類がみられ、標高が上がるにつれてカッコウ、ホトトギスなどのさえずりを聞くことができます。



イロハモミジ

カゴノキ

トサムラサキ

シシラン

弥山山頂 【標識番号】M-06、M-06-1、M-06-2



弘法大師空海が開基したと伝えられる靈峰・弥山の山頂（標高535m）からは、「宮島の真価は弥山の頂上からの眺めにあり」と伊藤博文が名言を残したほど美しい大パノラマが広がります。山頂付近には岩穴の水が潮の干満と合わせて変化すると伝えられる不思議な干満岩や門柱のような不動岩、舟のような形をした舟岩などの奇岩・巨石がみられ、弘法大師ゆかりの諸道が点在しています。

岩屋大師（岩屋大師竜穴）【標識番号】O-10-1



「駒ヶ林」の大断崖の下には、「岩屋大師堂」と呼ばれる巨大岩があります。畳40畳余りを敷くことができる空洞があり、弘法大師が求聞持参法を修行した跡と伝えられ、その奥には弘法大師が祀られています。

宮島を自然散策するときのルール

宮島は、全島が国立公園の特別地域で、特別史跡及び特別名勝にも指定されています。また、弥山原始林は天然記念物に指定され、その周辺一帯の国立公園特別保護地区内では、動植物や岩石の採取、焚き火などが禁止されています。宮島の希少な自然をいつまでも残していくよう、利用ルールを守りましょう。



ツガ林



ツガ林は天然記念物「弥山原始林」の中心をなしています。日本列島の森林の垂直分布から見ると、ツガ林は中間帯に属し、宮島では弥山、駒ヶ林、岩船岳などの海拔400m以上の地域に分布しており、その面積は宮島全体の4.5%（1.4km²）しかありません。瀬戸内海の他の島で、このようなツガ林の残っている所はほとんどなく、極めて貴重な森林です。

アカマツ・クロマツ林



宮島の面積の約88%は、過去に伐採や山火事の影響を受けたアカマツ林ですが、戦後、人の手があまりいらなくなつたため、自然にまかせた遷移が進み、60年～120年の樹齢になる巨木が多くみられます。クロバイ、シキミ、ヤブツバキ、シロダモ、イヌガシなどの常緑広葉樹がよく茂っています。

町(丁)石

弥山までの道のり（弥山堂）に古くから設置されている石の道標です。かつては山頂を二十四町（丁）として、1町（丁）=約109mごとに設置されていました。最も古いもので慶長4年（1599）年の銘が残されています。

コースの利用にあたっての注意

- 所要時間は、40～50歳の登山経験者が少人数で、日帰り登山程度の装備にて、晴天時に歩いた場合を想定しています。自然観察や見学、観光、休憩等の時間をふくまないで、目安程度にご活用ください。
- 日没後は非常に危険です。ロープウェー等の交通機関の運転状況や最終時刻などを確認し、日没3時間前には下山するようしてください。
- 全コースで登山道を歩きます。ハイキングや軽い登山レベルのコースでも、登山に向いた服装や靴を使用し、非常食や飲み物などを携帯してください。
- 危険な生きものに注意してください。（毒ヘビ、スズメバチなど）

▼ 宮島の代表的な自然環境

宮島の動植物

国の天然記念物に指定される弥山原始林、低地には珍しいモミ自然林、沿岸部の海浜植生や塩沼地植生、そしてそこにしか生息しないミヤジマトンボなど、希少で多様な動植物が生息・生育しています。また、宮島のいたるところでシカが生息しています。野生生物ですので、エサを与えず優しく見守りましょう。

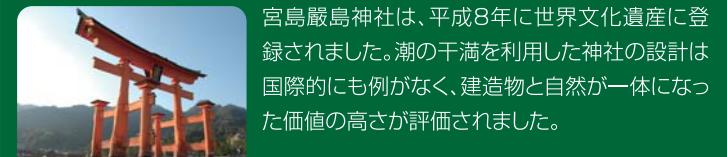
宮島の地形・地質

地形は急峻で、奇岩や巨岩などが点在します。地質は花崗岩が主体で、球状風化、方状風化等の風化現象、海食洞、海食窓穴等の侵食現象が多くみられます。海岸部は、風化したマサ土による砂州や砂浜、干潟や磯浜、潮汐湿地など、変化に富んでいます。

宮島の歴史・文化

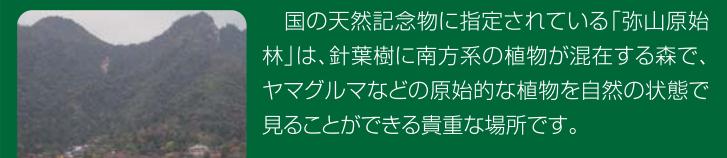
世界遺産である嚴島神社をはじめ、弥山、大聖院、大願寺など、多くの神社寺院・史跡等があります。宮島外周部の7つの浦に神様が祭られているほか、嚴島合戦の古戦場なども島に点在しています。

厳島神社（世界文化遺産）



宮島嚴島神社は、平成8年に世界文化遺産に登録されました。潮の干満を利用した神社の設計は国際的にも例がなく、建造物と自然が一体になった価値の高さが評価されました。

弥山原始林（国の天然記念物）



国の天然記念物に指定されている「弥山原始林」は、針葉樹に南方系の植物が混在する森で、ヤマグルマなどの原始的な植物を自然の状態で見ることができる貴重な場所です。

ラムサール条約登録湿地とミヤジマトンボ



ミヤジマトンボは、環境省と広島県の絶滅危惧I類に分類され、国内では宮島に唯一生息しています。生息地である宮島の南西部沿岸域が、平成24年7月にラムサール条約に登録されました。

モミ自然林（大元公園）



モミは冷涼な山地を好む針葉樹で、海岸に生育することは極めてまれです。大元公園一帯には、モミ、ツガ、カヤなど冷涼な山地に生育する針葉樹が海岸近くに自生しており、植物学上とても貴重です。

七浦神社（嚴島神社末社）



弥山を常に右にみるように宮島の外周約30kmを舟で廻って、七浦に祀られる神社（嚴島神社末社）に祈願する「七浦めぐり」が古くから行われています。

海辺の生き物



宮島には、干潟や磯浜、潮汐湿地等の多様な自然海岸が残されています。特に嚴島神社から大元公園までの大きな干潟には、様々な貝やカニなどが生息し、観察に適しています。